

でなく、中へ入つて遊ばすのも一目的であるから、砂の池といふ方がいゝといふ後藤さんの御考(である)の中へ入つて、いろ／＼の金皿や、箱で砂をすくつては、此の臺の上で遊ぶのである。然し御話によると、子供は此の臺の上で砂を弄ぶと共に、砂の中に座つたり、或は寝たりすることを、大層喜ぶといふことである。余は此の説を聞きながら、繪で見た倫敦の某公園の砂の廣場や、ニユーヨークのセント、ガブリエル公園とかにある砂遊び堂のことを思ひ浮べた、そうして日頃主張して居る大砂場の實現を喜びに堪えなかつたのである。

砂池を高く覆(おほ)ふて居る藤棚の上に、薄日(うすび)がさして來た。上着を脱いでシャツと半ズボンの活潑な男の子が駈けて來て、先生が外で遊んでいゝでせうと、外遊のゆるしを願ひに來た。先生がこれを許されると、今迄遊戲室で輪飛びなどをして居た子供達も嬉しそうに皆外へ出た。そうして砂池の遊びが直ぐに始まつた。お暇(いとま)をするに臨んで、參觀者の義務として、何か所感を聞かせよとのことであつたから、余は直ぐお答へした。子供さん達が皆著しく血色がよくて、目が活々して居るのを何よりも直ぐ氣附きましたと。

▲寝せつけし子の洗濯や夏の月 (一茶)
▲母親やすつみがてらの針仕事 (同)

本誌定價

一册郵税共金拾壹錢 六册前金郵税共六拾錢
拾二册同金壹圓貳拾錢 郵券代用一割増

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に御送本致します。(振替口座東京一七二六六番)

本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます

(庶務上保姆紹介に關する件を含む)の御手紙は
東京市小石川區久堅町七十四番地フレイベル會事務所宛

會計事務は東京女子高等師範學校附屬幼稚園内、
雨森劍宛

本誌編輯の御用務(寄稿、廣告等)は東京府下千駄
谷八七八倉橋惣三宛

大正元年八月二日印刷
大正元年八月五日發行

編輯兼發行者 倉橋惣三
東京府豊多摩郡千駄谷町大字千駄谷八七八

印刷者 井登
東京市本所區番場町四番地

印刷所 凸版印刷株式會社本所分工場
東京市小石川區久堅町七十四番地

發行所 フレイベル會